

**学校法人天理大学**  
**平成23年度 事業報告書**

**1. 法人の概要**

(1) 設置する学校・学部・学科の名称および入学定員と学生数

**【天理大学】**

平成23年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
人間学部	宗教学科	50	260	230
	人間関係学科	80	320	348
	計	130	580	578
文学部	国文学国語学科	40	160	178
	歴史文化学科	50	200	221
	計	90	360	399
国際学部	外国語学科	170	340	320
	地域文化学科	180	360	384
	計	350	700	704
国際文化学部	アジア学科	募集停止	300	261
	ヨーロッパ・アメリカ学科	募集停止	400	408
	計	募集停止	700	669
体育学部	体育学科	200	740	831
総合計		770	3,080	3,181

**【天理大学大学院】**

平成23年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
臨床人間学研究科		8	16	16

**【天理高等学校】**

平成23年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
全日制課程（第一部）	普通科	※ 520	1,560	1,206
定時制課程（第二部）	普通科	108	432	428
	介護福祉科	募集停止	36	12
	計	108	468	440
総合計		628	2,028	1,646

※募集人員は440名

【天理中学校】【天理小学校】【天理幼稚園】

平成23年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	収容定員	学生数
天理中学校		200	600	597
天理小学校		※ 125	750	476
天理幼稚園		50	200	120

※募集人員は約110名

以上、大学から幼稚園までの学生数の総計： 6, 036名

(2) 役員・教職員の人数

平成23年5月1日現在

部 門	役 員	教 員		職 員		計
		専任	兼任	専任	兼任	
法人	17			66	25	108
天理大学		149	210	72	56	487
天理図書館				41	12	53
おやさと研究所		7		1	4	12
天理参考館				30	2	32
天理高等学校(第一部)		77	9	29	93	208
天理高等学校(第二部)		34	6	25	43	108
天理中学校		34	3	6	15	58
天理小学校		26		5	2	33
天理幼稚園		13		2	2	17
合 計	17	340	228	277	254	1,116

## 2. 事業報告

本法人においては、学校経営をめぐる厳しい環境に対応するために、絶えざる改善・改革の必要性を認識しつつ、「陽気ぐらし世界」の実現に寄与できる人材、すなわち「よふぼく」の育成を目指す「信条教育」を核とする学校経営に努めてまいりました。管内学校においても、建学の精神に則った教育内容の充実を目指してそれぞれに努力を重ねました。

本年度も、毎年実施してきております「信条教育講習会」を、前川昭治理事(元天理高等学校副校長・本法人理事)を講師として、管内全教職員を対象に施設別に計3回開催し、建学の精神の更なる徹底を図りました。

さらに、新任者研修会、現職研修、公開授業研究会等を本法人主催の研修会として実施し、教職員の資質の向上を目指しました。

また、本法人の財政基盤の強化のためにかねてから設置を目指しておりました事業会社が、いよいよ「(株)キャンパスサポート天理」という名称のもと、学校法人天理大学100%出資により2月に設立、業務を始動しました。当初は「施設管理業務」「物品納入サポート」「損害保険・生命保険代理店業務」を中心にし、徐々に業務内容を拡充させる予定です。加えて、平成23年の税制改正により、学校法人に対する個人の寄付が所得税の税額控除制度の対象となったことを受けて、この制度を活用できる寄付金募集のあり方を検討し、次年度実施に向けた準備を行いました。

一方、管内のスポーツ強化のために設置している天理スポーツ強化推進懇談会がほぼ毎月開催され、いろいろな強化策を検討し、実施に繋げました。本年度天理大学ラグビー部が全国大会で準優勝という快挙を成し遂げられたのは、選手・監督・コーチの弛まぬ努力の成果であるのはもちろんですが、こうした取り組みも一つのサポートになっているものと思われまます。

施設・設備面では、親里ホッケー場第2グラウンド改修(人工芝)、天理大学体育学部グラウンド照明設備更新、天理高等学校陽心寮空調・給湯設備及びさおとめ寮空調設備改修、天理高等学校校外周防犯カメラ設置、天理中学校グラウンド散水設備設置、天理中学校体育館床面改修等を行い、教育環境の改善に努めました。

東日本を襲った大震災・大津波に対しましては各学校共、基本的には募金を中心とした救援活動を行いました。中でも天理大学では学生ボランティアを募集して被災地にて復興救援活動を行い、また、天理高等学校第二部でも農事部の野菜をトラック2台に満載し、生徒たちの手紙を添えて被災地に届けました。

天理大学においては、ロンドン大学 SOAS、更にはブルネイ国のダルサラーム大学との協定が締結され、国際化が一層進められました。

天理高等学校第一部、天理高等学校第二部、天理中学校、天理小学校、天理幼稚園においては、本年度10月に各校のWebサイトを一斉にリニューアルしました。本法人管内学校としての統一感あるデザインをモチーフに、即時性のある情報提供ができるよう運用システムを変更しました。

以下、平成23年度の各施設の主な事業内容を報告いたします。

## 【天理大学】

### ＜大学改革＞

「国際学部」開設（平成 22 年 4 月）の際に、文部科学省へ届け出た履修科目の開設状況および教員の就任状況等について、その後の履行状況を同省に報告しました。

「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」（平成 22 年文部科学省令第 15 号）の施行により、大学が公的な教育機関として社会に対する説明責任を果たすという観点から、教育情報の公表が義務化されました。本学でも、大学の教育研究上の目的に関する事、教育研究上の基本組織に関する事、教員組織及び教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する事等、教育研究活動等の状況についての情報を、本学ホームページにおいて公開しました。

自己点検評価関係では、平成20年度の認証評価で（財）大学基準協会より提示された指摘事項について、項目ごとに過去3年分の改善状況を調査し改善報告書としてまとめました。この改善報告書は平成24年7月に同協会へ提出する予定です。また、次の大学評価に向けての活動として、新評価システムの点検評価項目の内、「教育内容・方法」について点検・評価を行い、報告書を作成し学長に提出しました。

### ＜教育・研究＞

本年度の学年暦では、春学期定期試験を実施した後に、従来授業日から外していたこともおちばがえり期間中の前半一週間に普通授業を入れ、半期 15 コマの授業時間数を確保することにしました。学生・教職員の困惑が心配されましたが、特に混乱はなく実施できましたので、しばらくはこの方法で春学期 15 コマの確保を図っていく予定です。

資格課程においては、「精神保健福祉士法施行規則の一部改正」(平成 20 年厚生労働省令第 108 号)に基づき、精神保健福祉士受験資格取得のために「人間学部の専門教育科目の履修に関する規則」改正を行い、厚生労働省に申請しました。また、「図書館法施行規則の一部を改正する省令」(平成 21 年文部科学省令第 21 号)、「博物館法施行規則の一部を改正する省令」(平成 21 年文部科学省令第 22 号)改正に基づき、「図書館司書課程科目」「博物館学芸員課程科目」の改正を行い、文部科学省に申請しました。

教員免許状取得の総まとめとなる科目「教職実践演習」の履修に際して、必要となる『教職履修カルテ』を作成し、本年 7 月に学生が利用できるように電子化しました。

本年度の教員免許状更新講習は、従前と同様に奈良教育大学が開講申請者となり、本学は協力校として、8 月 24 日に体育学部キャンパスで「保健体育科における教科指導」、8 月 26 日に柚之内キャンパスで「特別なニーズ教育と学校教育心理学」と、選択領域 2 講座を開講しました。

神戸親和女子大学と締結した「小学校教諭一種免許状取得プログラムに関する協定」に基づく同プログラム受講者は、本年度 14 名を推薦しました。なお、22 年度にスタートした同プログラムにおいて、受講学生 1 名が小学校教諭一種免許状を取得しました。

F D (Faculty Development) 関係では、前年に引き続き、年 2 回学生による授業評価アンケートを実施しました。F D 研修会は、6 月に「多様な学生に対応した学習プログラムの現状と課題ーキャリアポートフォリオの活用を含めた教育改善の可能性ー」をテーマに開

催しました。また、公開授業は従来の 10、11、12 月の 3 回の実施に加えて、FD 委員会が後援する公開授業として、「大学生の就業力育成支援授業」プロジェクトによる「コンビニシミュレーション」講義と、CALL (Computer Assisted Language Learning) 運営委員会による CALL 教室での授業を教職員に公開しました。

語学教育の充実に向けて導入した CALL 教室では、教員と CALL サポートスタッフの協力を得て 2 言語の教材(コンテンツ)を開発し、学生が自宅でも語学トレーニングができるよう e-learning を設置しました。

#### <学生支援>

前年に引き続き信仰フォーラム講演会、ジョイアセミナー、薬物乱用防止及び交通マナー勉強会を開催しました。

信仰フォーラム講演会は、6 月 15 日に羽成守氏(天理教日帝分教会長・弁護士)に「社会における宗教の役割」、また 11 月 9 日には小西雅子氏(声楽家・ソプラノ歌手)に「心に響く歌声を」のテーマでそれぞれ講演いただき、多くの教職員・学生が聴講しました。

学生自治会、よふぼく会、成人会の共催による「ジョイアセミナー」は、7 月 5 日に飯降成彦氏(天理高等学校長)に、また 11 月 11 日には田中善吉氏(天理教学生担当委員会委員長)に「天理大学生に期待すること」のテーマで、それぞれ講演いただき学生が聴講しました。

薬物乱用防止及び交通マナー勉強会を 6 月 6 日に実施し、勉強会では薬物乱用防止の DVD 上映のほか、交通マナーについて天理警察署の指導員より指導を受けるなど、各クラブ役員が多数参加しました。

学生相談については、昨今増加傾向にある発達障がい学生に対し、カウンセラー、教員、保護者との連携により、入学前・入学後の支援を行いました。また 2 年次生以上の発達障がい学生の継続支援ならびに教員へのコンサルテーションを行いました。

学生の更正支援および復学にあたっての心のケアや、過年度生、休学者の復学支援を適宜行いました。これを受けて 2 月 15 日に学生相談委員会主催の教職員対象研修会「精神的な問題を抱える学生を理解するために」を開催しました。

#### <災害復興支援>

平成 23 年 3 月 11 日に東北地方で起きた東日本大震災は、地震と津波により甚大な被害をもたらし、本学でも 15 名の学生が家族や自宅を失うなどの被害を受けました。本学では、震災直後に学長のもとに緊急対策本部会議を設置し、学生の安否確認を行うとともに、教職員による被災学生支援募金活動を実施しました。また、同会議のもとに東日本大震災復興支援プロジェクトチームを立ち上げ、毎月 26 日(1 年間)に天理駅前募金活動を展開しました。さらに同チームは、学生ボランティアを募集し、9 月 2 日～5 日の日程で被災地(宮城県多賀城市、宮城郡七ヶ浜町)に赴き、復興支援ボランティア活動を実施しました。

#### <国際交流>

本年度の学術交流は 8 月 22 日にイギリス・ロンドン大学 SOAS と、9 月 21 日にはブルネイ国のダルサラーム大学との協定を締結しました。これにより海外交流協定校は、19 カ国(地域) 32 校となりました。

学生の交換留学では、協定校からは51名の短期留学生を受け入れ、本学からは交換留学生として49名、認定留学生として3名の計52名の学生を派遣しました。

学術・文化交流面では、恒例となっている夏期日本語講座に新たにウクライナのキエフ大学も参加しての開催となりました。

#### <入試>

オープンキャンパスを3回（7月<全学部>、8月<全学部>、9月<人間・文・国際学部>）実施しました。また、大学祭期間中には入試部による入試相談会を開催しました。さらに、学外においては、入試説明会、高校訪問等の入試広報活動を積極的に展開しました。

大学全入時代の到来に伴い、厳しさをます入学志願者環境に対応すべく、平成23年度入学者選抜の結果について、多方向からの分析・検討を行いました。

#### <広報>

パブリシティに関しては、プレスリリースを約15件発信したほか、ラグビー全国大学選手権決勝戦の学内テレビ観戦応援会を実施しました。その他には、テレビ番組に柚之内キャンパスから生中継で出演し、本学文化系3クラブの活動が紹介されました。

大学広報誌「はばたき」を例年通り年4回発行したほか、ラグビー全国大学選手権準優勝の号外も発行しました。また、ラグビー部の活躍を中心に「天大スポーツ」写真展を天理本通りの「てんだりーcolors」で開催しました。

ホームページに関しては、本年度に改正された「学校教育法施行規則」第172条の2に基づき、教育情報の公表内容を充実しました。中でも学務システムと連携し、シラバスや学術情報リポジトリともシームレスなアクセスを可能にしたWeb教員・研究者公表システムを開発することにより、教員・研究者の多面的な情報を、受験生やその保護者をはじめ、マスコミ各社、他大学や各種研究機関など、幅広い対象に効果的に提供することが可能になりました。

広告については、産経新聞、毎日新聞、奈良新聞、朝日新聞のCMサイトタイアップの新聞広告のほか、朝日デジタル大学公開講座のWeb広告や、高等学校中国語教育・奈良県家庭クラブ・ラグビー・ホッケー・剣道の大会誌などへの協賛広告を掲出しました。また、天理駅電照広告、阪神甲子園球場看板広告を継続して掲出し、県内テレビでのCM放映も行いました。

大学要覧関係では、受験生向け大学案内と日本語専攻案内をリニューアルしました。また、本学創立80周年記念に制作したDVDを一部再編集し、さらに、英語版の大学案内DVDを制作しました。

大学史資料調査プロジェクトチームにおいては、前年度に引き続き各学科・専攻・コース、事務部署が所有している現用・非現用文書等の資料調査を行い、データファイルを作成（一部部署を除く）しました。また、旧電話交換台室に大学史資料室を設置して資料収集の準備を整え、一部保存資料を搬入し整理に取りかかりました。

#### <就職支援>

平成21年度に、文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」に採択された「キャリア

&メンタルサポート学生支援プログラム」は、3 年計画事業の最終年を無事終わりました。また、平成 22 年度に同省の「大学生の就業力育成支援事業」に採択された「天理スピリット『他者への献身』プログラム」は事業仕分けにより本年度で打ち切りとなりましたが、ポートフォリオシステムの導入などの実績を残し、学生の就業力育成に貢献できました。

平成 22 年度からスタートした「天理大学サテライトオフィス」(大阪・梅田)は、本学学生の就職支援の拠点として、在学学生・卒業生のみならず周辺企業の採用担当者の来訪も増え、順調に機能しています。本年度からは、このサテライトオフィスで韓国語・中国語の語学講座を開講し、多くの受講生を集めました。

就職活動を行う 3、4 年次生のみならず、低年次の段階から進路に対する意識を高められるよう様々なサポートを行いました。まず、入学時には新入生全員に「キャリアデザインシート」(総合適性検査)を実施し自己の適性を把握させ、在学中の明確な目標を設定させる一助としています。また、人生観・職業観を育成するため、実業界で活躍する卒業生を講師に迎える「キャリアデザイナー-人生と職業-」の科目を開講しました。さらに、2、3 年次生には、「奈良県大学連合インターンシップ制度」に参加させ、大学在学中に就業体験することにより、職業に対する意識を高めています。

この他にも、学外から講師を迎え、1、2 年次生対象の進路ガイダンスやセミナーを行い、3 年次生に対しては、6 月中旬から翌年 1 月まで全 12 回の進路ガイダンスを実施しました。また、2 月には、企業の人事・採用担当者を大学に招き、学内企業説明会を開催し、2 日間で参加企業は約 100 社、参加学生は約 400 名と盛会裏に終えることができました。

さらに、多様化した学生に対して、体系的な支援とともに個別に支援する取り組みも行いました。その一環として平成 16 年から「キャリア支援ルーム」を開設し、キャリアアドバイザーを学外から迎えて就職相談を本年度も実施し、柚之内キャンパスでは週 5 日体制で、体育学部キャンパスでも週 1 日、個別相談に応じる支援を行いました。

この他、教員との連携を深めるため、「就職情報交換会」を 6 月と 10 月の年 2 回開催しました。また、就職支援・資格取得講座は総数で 370 名の学生が受講しました。

#### <施設・設備>

学修環境の改善ならびにエコの観点から、3・4 号棟 2、3 階教室の照明器具を LED 照明に変更するとともに、4 号棟 2 階の 10 教室の学生用机・椅子の入れ替え、3・4 号棟の学生用傘立ての入れ替えなどを行いました。また、学生の要望を踏まえ、4 号棟学生ホールに机・椅子・冷水器などを増設しました。

身障者支援のため、心光館北側から第 1 体育館前までの点字ブロックを埋め込み型に改善しました。また 2・3 号棟身障者用トイレに非常連絡用設備を設置しました。さらに 4 号棟北側に車椅子用通路を設置しました。

学生の利用施設改善のため、心光館食堂内の壁面塗り替えと床面の研磨を行いました。また、課外活動施設では、弓道場屋根塗り替え、黎明館・空手道場・合宿所周辺の剪定などを行いました。

図書関係では、平成 19 年度より実施していたカード資料目録の電子データ化(遡及変換)作業を終了いたしました。遡及入力で得られたデータをもとに、日本語教員養成課程他 15

の共同研究室図書蔵書点検(バーコード貼付、蔵書確認)作業を行いました。本年度は、バーコード貼付について約 13 万 2 千冊、蔵書点検について約 17 万 6 千冊の作業を終えました。また学報を中心とした学内刊行物を電子DB化(学術情報リポジトリ)し、学内外へ公開しました。

平成 24 年度より、図書室がこれまでの天理図書館分館の立場を解消し、「天理大学情報ライブラリー」として独立することになり、図書室業務を丸善(株)に全面委託するための準備をしました。

#### <地域貢献>

天理市教育委員会、奈良新聞社、奈良県大学連合との共催で7シリーズ計 27 回の公開講座を開催しました。また、近畿圏内の高校(一部中学校も)での出張講義や来訪も含めた高大連携による講義など計 31 件を実施しました。

天理本通りに設けた「てんだり-colors」では、学科専攻やクラブが積極的に多くの活動を展開しました。商店街の活性化がひいては本学の発展にも寄与することから、地域の人々にも幅広く行事への参加を呼びかけました。

天理本通商店街の呼びかけにより、天理市、天理教、天理大学、天理高等学校等が、ともに自転車利用のマナー向上と安全運転への啓発活動をすすめるため、「天理自転車の安全運転推進協議会」を設立し、自転車の街・天理のイメージアップを図ることになりました。

天理警察署と連携して地域の防犯に努める「天理大学防犯パトローズ隊」は、3月11日に開催された天理市主催の「防災フェア-東北地方太平洋沖地震チャリティー」で、防犯の啓蒙推進と募金活動に協力し、多くの市民の方々から感謝の声をいただきました。

#### <その他>

天理大学ふるさと会(本学同窓会)との連携により、「第2回天理大学ホームカミングデー」を大学祭期間中の11月5日に開催しました。当日は卒業生の中尾千恵子氏による記念講演の他、各学科研究室での記念行事、心光館食堂で懇親会などを開催し、340名の卒業生、教職員が集い、盛会裏に終わることができました。

SD(Staff Development)関係では、本学の管理職職員6名が9月5日~6日金沢工業大学を訪問し、教育・研究支援、学生支援など同大学の取り組みについて研修しました。

人権教育関係では、ヒューマンライツ助成制度による各学部・学科、各部局、学生の自発的な人権啓発活動を継続して行いました。

#### 【天理図書館】

貴重資料・学術資料の収集・整理・保存に努め、善用心がけました。整理では、インターネット上での天理図書館所蔵資料の検索が可能となるように、新収資料を随時公開しております。本年度は、増加図書目録(昭和58年から同62年までの5年間に整理収蔵した資料)の遡及入力完了し、利用者サービスの向上に繋がりました。さらに、昭和5年開館以来のカード目録の遡及に取り掛かりました。

閲覧では、開架書架に出す図書を平成12年度以降の収蔵資料に範囲を広げて選定・配架しておりますが、絶えず新整理図書と入れ替えるなど、見直し作業を行いました。また、



閲覧席の老朽化したデスクマットをすべて取り替え、利用者用休憩室の机・椅子を新規に入れ替えるなど、利用者環境の改善も図り、美化に取り組みました。

保存では、国宝『類聚名義抄』をはじめ、貴重資料を修復し、閲覧・複製等の利用に供せられるようになりました。

天理図書館所蔵資料を広く一般に公開する使命から、教祖御誕生祭記念展「おぢばかえりのお土産絵」（4月17日～同19日）、開館81周年記念展「近世の文人たち―自筆資料にみる人となり―」（10月19日～11月7日）を開催しました。また、東京天理教館において天理ギャラリー第143回展「開館八十周年記念特別展―近収稀観本を中心に―」（5月15日～6月12日）を開催しました。

出版活動では、天理図書館報『ビブリア』第135号(5月刊)、同第136号(10月刊)のほか、開館81周年記念展、天理ギャラリー第143回展それぞれの展覧会図録を出版しました。

### 【おやさと研究所】

本年度は、創立50周年の記念として始めた公開教学講座を、「現代社会と天理教」をテーマとして、前年度に引き続き4月～12月の全9回、道友社ホールにて開催しました。毎回百名を超える受講者があり、その要旨は、『グローバル天理』『天理時報』『みちのとも』に掲載され、多くの関心を集めました。

8月27日には、国々所々において現代の諸問題に対応できる人材養成を目的とした「教学と現代IX」を、「東日本大震災における天理教の救援―全教あげての活動と今後の課題を考える―」のテーマで、基調講演3講と、岩手、宮城、福島の救援活動担当者を交えたパネルディスカッションをふるさと会館を会場に行いました。「教学と現代」は、毎回、参加者から、意義ある催しであるとの大方の賛同を得ており、継続的な開催の要請があります。

定例の研究報告会は、237回～247回の13回開催、第20回宗教研究会は、前年度に引き続き「現代世界の“死”に見るいのちの危機と宗教の課題」をテーマとした研究会の3回目を、7月21日に「東日本大震災とグリーンケア」「慈済の死生観と宗教的实践」の2つの発題のもと開催されました。

出版物としては、定期の月刊誌「グローバル天理」をはじめ、年刊の「Tenri Journal of Religion」「おやさと研究所年報」を出版しました。「伝道参考シリーズ」の23巻目は、「教学と現代IX」で取り上げた「東日本大震災における天理教の救援―全教あげての活動と今後の課題を考える―」の基調講演とパネルディスカッションをまとめ、出版しました。また、13冊目となる「グローバル新書」は、笹田勝之著『天理教における「さとり」の構造について―他宗教との比較を通して―』を出版しました。

教祖百二十年祭後の次の塚を目指して真中の年であった本年度は、当初立てた計画をスムーズに遂行することができました。

### 【天理参考館】

東日本大震災の復興支援が全国で進められる中、東北地方の資料多く収蔵する当館ができる支援として、来館者が東北地方への文化理解を深め、被災された方々へ心を寄せる一

助となればとの思いのもと、「みちのくの郷土玩具と出土品―東日本大震災復興展示―」（7月～3月）を開催しました。また、文化庁の提唱による文化財レスキュー事業の奈良県内での取り組みとして発足された、“文化財レスキュー応援せんと！”実行委員会に参加し、被災文化財の救済、復興に向けた募金活動を行いました。

企画展『東アジアの古代瓦―その起源と源流―』（4月～6月）、『朝鮮半島 暮らしの石もの』（7月～8月）、『中華世界の民間版画―招福の祈り―』（10月～12月）、新春展『シルクロードを彩る人工の華 古代ガラス』（1月～3月）、及び『みちのくの郷土玩具と出土品―東日本大震災復興支援展示―』（7月～）、スポット展『五月人形飾り』（4月～5月）、『御殿飾雛人形』（2月～4月）などを開催しました。また、天理ギャラリー展『古代日本の鏡』、『吉祥づくし明治の引札―商家の広告印刷物にみる福德円満のかたち―』を開催しました。

企画展関連イベントとして開催した記念講演会（5回）は好評でした。このほかトーク・サンコーカン（公開講演会／8回）、ワークショップ『バリガムラン体験講座』、『古代豪族・和爾氏の里を訪ねて―卑弥呼の鉄刀と東大寺山古墳―』などを開催しました。また、ミュージアムコンサート『参考館メロディユー』（天理教音楽研究会共催／12回）を継続して開催しました。

一昨年度から始めた寄贈資料の整理、登録業務を進めました。通常業務としては考古美術・生活文化資料の収蔵品及び研究用図書の実を図り、資料の調査研究、整理、修復・保存処理を行いました。出版物として天理参考館報、企画展図録、資料案内シリーズを刊行しました。

広報としてはホームページ、情報誌、マスコミ、ポスター、ちらし等のほか、『天理参考館ニュースレター』を発行するなど、館活動の情報発信を継続して行い、広報活動の実を図りました。

そのほか資料熟覧、資料貸出、資料写真掲載・映像取材などの協力、及び博物館実習を実施、また関西博物館連盟幹事館として第151回例会を開催しました。

来館者に喜んで頂けるよう、親切な接客、博物館情報の提供、館内の美化等に取り組み、また、管内各学校や天理市内の小・中学校への当施設利用の促進の働きかけを継続しつつ、新たに全国の学校施設に拡大して働きかけを行いました。

### 【天理高等学校第一部（全日制）】

信条教育の面では、校内に掲げられていた御神言の内容を差し替え、新たに掲示しました。また、生徒に対しては、定刻参拝をより充実させたいとの思いから、各教室に「朝のおつとめ〔定刻参拝〕をより意義あるものに」を掲示し、生徒一人ひとりの意識を高めると共に、教職員全員がこれに取り組むための努力をしました。並行して、本年度も教職員研修ではおつとめを重視し、鳴物についての講義と練習を行い、教職員自身もおつとめの大切さや深さを学ぶことができました。加えて、62回を数える校内講演大会を講聴、こどもおちばがえりひのきしんへの参加など動きのある活動を目指しました。こどもおちばがえりひのきしんには、全校生の半数以上にあたる663名の生徒が参加し、夏の学生生徒修養会には自宅生16名が参加するなど、教を求むる姿がみられました。そして1月、3年

生 399 名全員がおさづけの理を拝戴しました。

進学・学習指導では、通常の課外講習に加え、夏季・冬季講習、合宿勉強会、特設課外講習、土日を利用しての補習や模擬面接、センター試験対策を行いました。結果、2 類から東京大学(理 I)・京都大学(医)・大阪市立大学・大阪府立大学などへ現役 19 名、1 類からも名古屋大学(工)、奈良県立医大、三重大学などへ 12 名、合計 31 名が国公立大学へ合格しました。特に、1 類から 9 名が現役で国公立大学へ合格し、また、天理大学合格者 122 名をはじめ、その他の私立大学・短期大学へ 247 名が合格しました。毎年着実に増加の傾向にあることは、生徒の希望する進路の実現に向けて、家庭や寮における勉強の定着を図るための工夫や丁寧な学習指導の成果であると考えられます。

教員個々の学習や進路指導の充実、生徒指導を含めた指導力全般の維持や、更に充実した人権教育の確立に向けて、校内では授業研究会や各部会による外部講師を招いての様々な研修を行いました。また、奈良県立教育研究所の「研修講座」への参加など、管外の研修へも多くの教職員が参加しました。

クラブ活動では、北東北で開催されたインターハイへ、柔道部・ホッケー部・卓球部(男子個人)・水泳部・ソフトボール部が出場しました。その後、山口で開催された国体では、全国大会(2 年連続 13 回目)でベスト 8 となり勢いにのる軟式野球部が、創部初の準優勝に輝きました。個人では、砂間敬太(1 年生)が、国体で水泳少年 B・200m 個人メドレー、100 m 背泳ぎで優勝すると共に、ロンドンオリンピック準強化選手に選出されました。また、9 月に行われた、全日本ジュニア柔道体重別選手権大会で泉谷僚児(2 年生)が 55 kg で優勝し、世界ジュニア柔道選手権大会に出場。ホッケーでは森下彩加(3 年生)がユース(U18)女子日本代表に選ばれ、第 3 回 U18 女子アジアカップに出場し、日本の初優勝に貢献するなど、世界へ羽ばたく逸材も育っています。

また、春の全国選抜大会には、柔道部・ラグビー部・野球部・ホッケー部・卓球部が出場し、ホッケー部女子が準優勝、柔道部がベスト 4 に入るなど、各クラブとも今後に期待の持てる活躍をみせました。

文化系のクラブでは、吹奏楽部が、全日本高等学校吹奏楽 in 横浜で 7 年連続のグランプリを受賞(総合・準優勝)し、2 年ぶり 10 回目の全国大会出場を果たしたバトン部は銀賞を受賞しました。夏、福島県で行われた第 35 回全国高等学校総合文化祭には、囲碁将棋部・求道部雅楽班が出場しました。美術部は、第 61 回学展油絵で 1 名が入賞、2 名が賞候補入選となりました。創部 10 年目を迎えたダンス部も 2 つの全国大会に出場し日頃の練習の成果を発揮しました。

学校評価については、教職員・生徒による評価を通して、学校全般や生徒の実態がより明確になり、分掌によっては活発な動きがみられ成果をあげることができました。

#### 【天理高等学校第二部(定時制)】

本年度は「東日本大震災」被災地の方々への義援金募金活動で始まりました。年末の 12 月には本校農事部の野菜を学校のトラック 2 台に満載し、生徒たちの激励の手紙を添えて、被災地の方々にお届けしました。

信条教育については、校内での教話拝聴・全校てをどりまなびを実施しました。また、毎年5月には奈良県障害者スポーツ大会に多数の教職員・生徒がボランティアとして参加し、大会の運営に欠くことのできない存在となっています。夏の「こどもおぢばがえり」ひのきしんや、正月の「お節会」にも述べ数百名の教職員・生徒が帰参者の接待にあたらせていただきました。

施設面では、男子寮・女子寮ともに冷暖房の空調設備を全館に設置し、夏場の熱中症や不眠の予防等、生徒の健康管理の上から住環境の大きな改善に取り組みました。また、男子寮はボイラーからガス設備に交換し、給湯設備を一新しました。

教育相談室については、学校・寮職員一人ひとりが、生徒の抱える様々な悩み、相談に対応できるよう、校内研修に加えて、県立教育研究所の種々の講座に積極的に参加し、自己の指導力向上に努めました。

教育課程について、新学習指導要領の完全実施に向けて履修科目の決定・指導内容の検討を各教科で行いました。

介護福祉科は、本年度卒業の9期生をもって閉科となりました。第1次・2次の国家試験に全員が合格し、3年連続全員合格という形で有終の美を飾ることができました。

クラブ活動では、夏の全国定時制通信制体育大会に、8クラブ約136名の選手が参加し、昨年に続き史上初の5連覇、8回目優勝の軟式野球部、4年連続12回目優勝のバスケットボール部女子、2年連続16回優勝、個人の部優勝のソフトテニス部女子、個人・軽量級優勝の柔道部などが大いに活躍しました。また、雅楽部は11月19日・20日の2日間、「ジャパン・マレーシア交流プロジェクト2011」（文部科学省委託事業）に参加し、伝統芸能を継承するマレーシアの学生たちとの国際交流を深めました。

11月26日(土)には6回目となるオープンスクールを実施しました。今回は例年以上に多くの方々が来校して下さり、本校への理解を深めていただきました。

学校評価については、昨年に続いて、教員が氏名明記で意見を出し合い実施しました。評価から見えてくる成果と課題を各部会等で検討し、次年度に向けた取り組みを行いました。

### 【天理中学校】

本年度は、4月当初から5月半ばにかけて季節外れのインフルエンザが流行し、また1月から2月の受験期には全国的にインフルエンザが流行しました。2年前の新型インフルエンザの経験をふまえ、全国的な感染症等の情報システムの導入が検討される中、奈良県でも学校欠席者のサーベイランスが導入され、1月から実施されることになりました。

新学習指導要領が、平成24年度から完全に実施されることに伴い、1学期は奈良県立教育研究所より講師を招いて研修を実施しました。2学期は「言語活動」をキーワードに、各教科(5教科)が指導案を作成し、教科ごとにその指導案をもって教育研究所へ出向し、研究指導主事からの助言を頂く研修を実施しました。その他、県や市の「研修講座」や「授業研修」等にも積極的に参加しました。

P.D.C.A. (Plan.Do.Check.Action) につきましては、これまで通り行事ごとにアン

ケートをとりながら進めました。また、昨年に続き実施した学校評価では、概ね良い結果ではありましたが、研究授業を実施して教員の授業技術を向上させることへの課題を確認しました。本年度は研修部を再度立上げ、相談を重ね計画案を作成しました。

不登校傾向の生徒やオアシスルームに入る生徒、また心に問題を抱える生徒たちへのケアについては、教育相談委員会を中心に、各担任や学年、養護教諭やカウンセラー、天理大学院生であるオアシスフレンドとの連携を密にしながら状況把握に努め、カウンセリングにつなげるなどのサポートを行いました。また、担任や副担任の家庭訪問も必要に応じてくり返し実施しました。

部活動については、飛込部が近畿大会において29年ぶりに男女総合優勝に輝き、柔道部、水泳部とともに全国大会への出場を果たしました。また、野球部は県選抜大会に48年ぶりに決勝戦に進出を果たし、惜しくも準優勝となりました。吹奏楽部は2年連続奈良県代表として関西コンクールへ出場、弦楽部はこども音楽コンクール「合奏第Ⅱ部門」において、西日本大会最優秀賞を受賞し、全国大会へ出場を果たしました。箏曲部は全国小・中学校コンクールで銅賞(3位)を受賞しました。

特に本年度は、長年の懸案事項でありました「天理中学校規程集」を完成させることができました。

### 【天理小学校】

「信条授業案集」を刊行して2年近くになろうとしており、本年度も、研修の一環として「信条の授業学習会」を設け、全教員が新たな「授業案」を作成したうえで模擬授業を実施し、意見交換を行いました。道の教えを児童にしっかり伝えることができるよう、またマンネリに陥らぬよう常に創意と工夫を凝らしました。

本年度は、昨年度の評価・点検項目から少し変更を加えました。より教職員の目線に近いところに焦点を当てましたが、例年以上の高い評価がなされました。保護者アンケートについては、学習や生活指導の面では、昨年より評価が上がっていますが、悩み事の相談という点ではそれほど学校を頼りにされていない点が示されました。教員が児童に対してより丁寧に対応することを確認しました。

「天小タイム」の申し合わせ事項として、

- ①夏校時は15分間、冬校時は可能な範囲で実施すること
- ②委員会の仕事はできる限り昼休みに回すこと
- ③教材は各学年毎で検討して決めること

をとり決め、各学年の実情に合わせて実施してきました。暗唱指導では、「お道の言葉と詩文集」を作成して活用してきました。本年度から一冊の本にまとめましたが、他校の方々からも好評を得ております。計算につきましては、「計算チャレンジ会」を行い、「天小タイム」で身につけた計算力を試す機会を作りました。

11項目ある研修の小テーマには、

- ①研究授業や公開授業を通して「学校組織としての教育力向上」と「各自の授業技術の習得」を目指す

## ②学習重点目標を意識した取り組みと今後の方向性を探る

などを設定しました。本年度より施行された新学習指導要領の趣旨をしっかりと踏まえた授業ができるように、さまざまな研修を重ねました。特にK T M方式（K＝課題提示、T＝チームで検討、M＝模擬授業）を用いての研修は実効性がありました。また、児童の実態に合わせた「特別支援を意識した授業づくり」について、具体的な対応の仕方や教材・教具づくりの研究にも取り組みました。学級経営につきましては、2年前より保護者に「学級経営案」を公開し、計画的で工夫を凝らした学級経営を目指しました。

学校通信の『布留からの発信』は本年度、146号（通算751号）を数えました。2日に1回の割合で発行していることとなります。保護者にリアルタイムで学校の様子を伝えておりますが、子どもとのコミュニケーションの橋渡しの役も担うことができました。次年度4月号で通算700号を迎える『天小だより』は、保護者と連携を図りながら発行しました。学級通信は、クラスにより発行の度合いのばらつきがありますが、児童・保護者の共感が得られるよう推し進めました。

### 【天理幼稚園】

信条教育を基盤とした幼稚園教育を行うことが私たち教師の使命であることを自覚し、子どもたちの心に寄り添い、一人ひとりの良さや可能性を伸ばしていけるよう、その子の育ちにあった環境づくりや援助に取り組みました。

2年目を迎えた3歳児の保育体制については、再度教育課程を見直し、3歳児の精神的、身体的発達に考慮しながら保育内容の充実を図るとともに、保護者の負担が軽くなるよう配慮しました。

同じく実施2年目となる預かり保育については、様々な理由によって預かりを利用される家庭が増え、子育て支援の重要な一環となっています。子どもたちにとっては通常保育に続いての長時間保育となるため、異年齢の子どもたちが家庭的な安らいだ雰囲気の中で安定した気持ちで過ごせるよう、遊びや環境づくりに配慮しました。

保護者との連携においては、例年以上にプリント配布や、スナップ写真展示などで、様々な情報を提供するとともに、10月にリニューアルされたホームページを通して、園の情報をできるだけタイムリーに提供しました。

育友会活動においては、長い歴史の中で時代の流れとともに、近年、活動や行事の規模が縮小されてきていますが、幼稚園にとって育友会活動が子どもたちの望ましい成長を願う上で不可欠であることを保護者に理解していただくとともに、育友会の行事を園の行事に移行したり、育友会活動時に園が託児を行ったりして、保護者の負担に配慮し、充実した育友会活動ができるよう努めました。

教員研修では、文科省の研究主題「幼児が進んで食べようとする気持ちを持つための環境の構成と教師のかかわりについて」に基づいた実践と、公開保育による研修を行いました。その他、講師を招いての「絵本の与え方」についての研修、DVDによる研修を行いました。また、様々な研修会に代わり合って参加し、教員一人ひとりが研鑽に努めました。

本年度も保護者アンケートを含んだ学校評価を実施しました。保護者アンケートの結果

は、本年もほとんどの項目が「A：とても思う」「B：思う」を合わせて90%以上と、高い評価をいただきました。中でも、本年度新たな評価項目「園は遊びや生活の中で、また行事として、親神様、教祖に感謝する心を育てる」において、AB合わせて98%と、一番高い評価をいただきました。保護者アンケートの自由筆記欄における様々な意見や要望については、見直しや改善を検討し、3月の育友会総会にて、学校評価の結果報告とともに保護者へ説明を行いました。

環境面においては、木造園舎南側テラスの屋根の張替と鉄骨のペンキ塗り替え、木造園舎の柱と横木のささくれ立ちの修理などを行い、子どもたちにとって安全な環境となるよう整備を行いました。

### 3. 財務の概要

#### (1) 平成 23 年度決算の概要

平成 23 年度決算について、予算と対比してその概要を報告します。

#### ○ 資金収支計算

資金収支計算書は、当該年度における教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容、並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。すべての収支内容を明らかにするとは、実際の収入・支出に限らずその会計期間に入金又は出金すべき額、すなわち未収入金や未払金も収入・支出に含め、授業料免除等のお金の動きが実際にはない活動も含めることとなります。また、支払資金のてん末とは、支払資金の前年度末残高、入金、出金及び年度末残高を明らかにすることです。従って収入には前年度繰越支払資金を含めて計算し、支出には次年度繰越支払資金を含めて計算することになり、収入の部合計と支出の部合計は一致します。

資金収支計算書は企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いものですが、個々の収入金額、支出金額は前受金、未収入金、未払金、前払金等で処理した費用も含まれていますので、必ずしもキャッシュ・フローとはなっていないです。しかし、それら前受金等を調整する「調整勘定」を設けることにより、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

(単位：千円)

●収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,394,347	3,394,678	△ 331
手数料収入	66,027	77,457	△ 11,430
寄付金収入	3,100,500	3,100,250	250
補助金収入	1,308,087	1,290,385	17,702
資産運用収入	53,356	53,203	153
資産売却収入	100,000	100,000	0
雑収入	399,483	440,927	△ 41,444
前受金収入	474,250	526,665	△ 52,415
その他の収入	192,157	492,630	△ 300,473
資金収入調整勘定	△ 866,681	△ 880,210	13,529
前年度繰越支払資金	4,169,107	4,169,107	
<b>収入の部合計</b>	<b>12,390,633</b>	<b>12,765,092</b>	<b>△ 374,459</b>



●支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費支出	6,495,392	6,441,977	53,415
教育研究経費支出	1,262,471	1,167,167	95,304
管理経費支出	375,404	365,987	9,417
借入金等利息支出	4,288	4,288	0
借入金等返済支出	100,000	100,000	0
施設関係支出	87,310	87,233	77
設備関係支出	194,575	192,498	2,077
資産運用支出	101,310	109,078	△ 7,768
その他の支出	900,861	900,861	0
資金支出調整勘定	△ 1,397,491	△ 1,302,346	△ 95,145
次年度繰越支払資金	4,266,513	4,698,349	△ 431,836
支出の部合計	12,390,633	12,765,092	△ 374,459

収入の部では、学生生徒等納付金収入に今年度より海外語学実習費用が加わり、決算額はほぼ予算どおりとなりました。手数料収入は入学検定料収入の増額により1143万円の収入超過となっています。寄付金収入は宗教法人天理教より31億円、その他の寄付金が25万円です。補助金収入は国庫補助金収入がほぼ予算どおりでしたが、地方公共団体補助金収入が見込みを下まわったことから1770万円が予算額より減額となりました。資産運用収入は債券等の運用利率の低迷により予算額より減額となっています。雑収入は私立大学退職金財団等交付金収入が増額、また、その他の雑収入では文部科学省科学研究費補助金間接経費等が増えたため収入超過となりました。また、退職給与引当金の計算にあたり、退職給与引当資産からの繰入収入を3億円計上しました。当年度収入合計は前年度の82億5775万円より1億9915万円増加して84億5690万円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では127億6509万円となりました。

支出の部では、人件費支出は早期退職者特別退職金等の退職金分が見積りより減額したこと等から、予算額より5342万円下まわっています。教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出、設備関係支出に計上された主な工事、備品等の整備は以下のとおりです。

施 設	内 容
大 学	◇3号棟4号棟教室照明改修工事 ◇マルチメディア教室設備更新工事 ◇体育学部グラウンド照明更新工事 ◇CALLシステムユーザーサポート作業委託料 ◇8号棟図書室スタッフ派遣料 ◇6号棟教室机椅子入替 ◇在米日本人・日系アメリカ人対策公文書記録購入 ◇図書資料遡及データ登録作業費 ◇キャリアポートフォリオシステム導入 ◇マイクロフィルムデジタルビューアー・スキャナー購入

施設	内 容
図書館	◇放送設備アンプ更新工事 ◇重要文化財保存修理 ◇文学堂書店連歌資料 ◇特別図書「ディケンズ オリヴァー・ツイスト」他購入
参考館	◇台湾原住民関係古文書修復
高等学校	◇ホッケー場人工芝構築工事 ◇陽心寮エアコン設備・給湯設備工事 ◇さおとめ寮エアコン設備工事 ◇校舎外周防犯カメラ設置工事 ◇調理教室調理器購入 ◇一部硬式野球部選抜野球大会出場他補助 ◇白球寮舎監宅改修工事 ◇火水風寮大屋根防水改修工事・手摺塗装工事
中学校	◇体育館床ライン及び床面改修工事 ◇グラウンド散水設備工事 ◇音楽室エアコン設備工事

日本私立学校振興・共済事業団からの借入金にかかる返済支出は予算どおり1億円、同利息分が429万円です。資金支出は合計で127億6509万円となり、そのうち次年度繰越支払資金は46億9835万円となりました。

### ○ 消費収支計算

消費収支計算は企業会計における損益計算の仕組みに類似しています。すなわち帰属収入（学校法人の負債とならない収入＝収益）から基本金組入額（教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な土地、建物、機器備品、図書等を取得した金額＝資産）を差し引いた消費収入と消費支出（消費した資産の価額及び用役の対価＝費用）を比較して、その均衡の状態、収入が超過しているか、あるいは支出が超過しているかを判定するものです。（損益計算書では計上されない資本的支出が、消費収支計算書では基本金組入額として計上されている点が主な相違点です。）

学校法人は企業と異なり収益の獲得を目的とするものではありませんので、学校法人会計には損益の計算という概念はありません。教育研究内容に見合った適正な収入を得て、教育研究活動の機会と場を永続的に提供することを目的としています。消費収支計算書の消費収入と消費支出が長期的にはつり合い、必要な資産が維持されることが健全な学校経営として望まれるところです。

（単位：千円）

●消費収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,394,347	3,394,678	△ 331
手数料	66,027	77,457	△ 11,430
寄付金	3,189,620	3,250,441	△ 60,821
補助金	1,308,087	1,290,385	17,702

資産運用収入	53,356	53,203	153
雑収入	399,483	649,935	△ 250,452
帰属収入合計	8,410,920	8,716,099	△ 305,179
基本金組入額合計	△382,475	△204,849	△ 177,626
<b>消費収入の部合計</b>	<b>8,028,445</b>	<b>8,511,250</b>	<b>△ 482,805</b>

●消費支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費	6,496,592	6,220,850	275,742
教育研究経費	1,960,191	1,858,820	101,371
管理経費	639,776	622,004	17,772
借入金等利息	4,288	4,288	0
資産処分差額	29,700	64,397	△ 34,697
<b>消費支出の部合計</b>	<b>9,130,547</b>	<b>8,770,359</b>	<b>360,188</b>

当年度消費支出超過額	1,102,102	259,109	
前年度繰越消費支出超過額	9,751,799	9,751,799	
翌年度繰越消費支出超過額	10,853,901	10,010,908	

【用語（科目）の説明】

- ① 学生生徒等納付金……授業料、入学金、実験実習料、維持費、教育設備充実費等
- ② 手数料……入学検定料、試験料、証明手数料等
- ③ 寄付金……宗教法人天理教よりの回付金、一般寄付金等
- ④ 補助金……私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等
- ⑤ 資産運用収入……預金、有価証券等の利息、配当金等  
施設設備の賃貸料収入
- ⑥ 資産売却差額……資産売却収入がその帳簿残高を超えた場合の超過額
- ⑦ 雑収入……私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入
- ⑧ 帰属収入……すべての収入のうち、借入金等の負債の増加とならない、本来的に学校法人に帰属する収入（資金の収入を伴わない現物寄付を含む）
- ⑨ 基本金組入額……取得した建物、機器備品等の固定資産のうち、帰属収入をもって充当した額
- ⑩ 人件費……教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費、役員報酬、退職給与引当金組入額
- ⑪ 教育研究経費……教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
- ⑫ 管理経費……教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額
- ⑬ 借入金等利息……借入金に係る利息
- ⑭ 資産処分差額……固定資産を廃棄した場合の除却損

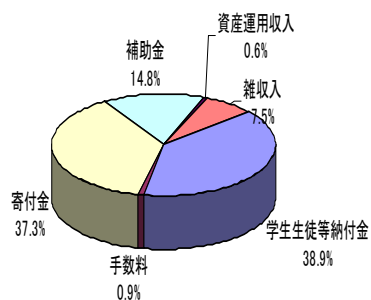
《前述の資金収支と共通の科目があるので、消費収支特有のものについて説明します。》

消費収入の部では、帰属収入合計が予算比 3.6%増の 87 億 1610 万円（前年度 6.7%〈5 億 4943 万円〉の増）となりました。基本金組入額合計が、予算比 46.4%減の 2 億 485 万円となり、消費収入合計は予算比 6.0%増の 85 億 1125 万円（前年度比では 8.3%〈6 億 5274 万円〉の増）となりました。消費収入特有の現物寄付としては大学後援会等より図書を受贈、文部科学省科学研究費補助金による備品購入があり、また、天理市との土地交換を現物寄付金として計上しました。寄付金は 32 億 5044 万円（前年度比では 0.6%〈2102 万円〉の減）となりました。消費支出の部では、人件費に退職給与引当金繰入額 7 億 9909 万円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は 2 億 2113 万円となっています。教育研究経費に 6 億 2710 万円、管理経費に 2759 万円の減価償却費を含んでいます。天理市との土地交換を寄付金として管理経費に 2 億 1900 万円計上しました。消費支出の部合計は 87 億 7036 万円（前年度比では 6.6%〈5 億 4230 万円〉の増）となりました。

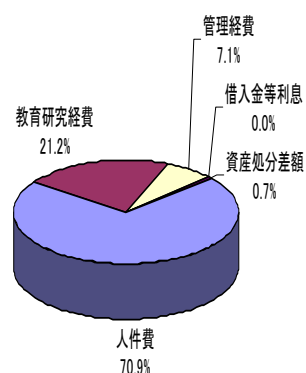
当年度消費収支差額は 2 億 5911 万円の消費支出超過額（前年度は 3 億 6955 万円の消費支出超過額）となり、前年度繰越消費支出超過額を加えた翌年度繰越消費支出超過額は 100 億 1091 万円となりました。

#### 《消費収支計算のグラフ》

帰属収入の構成比



消費支出の構成比



○ 貸借対照表

貸借対照表は、当法人の財政状態を明示するために、年度末に保有するすべての、資産、負債、基本金および消費収支差額を前会計年度末の額と比較して一覧表示したものです。資産の部は、貸借対照表の借方に表示され、学校法人天理大学に投入された資金がどのように使われているかを表示します。貸方に表示される負債、基本金、消費収支差額はその資産が他人の資金（負債）によって賄われているか、自己資金（基本金、消費収支差額）で賄われているか、すなわち資金の源泉を表示しています。

企業会計でいう資本という概念がないので、基本金の部（基本金として組み入れている金額）と消費収支差額の部（消費収支計算で消費収入から消費支出を差し引いたものの会計年度末までの累計額）が貸方に計上されることが企業会計のものと異なる点です。

また、記載金額は期末時点の財産価値ではなく取得した当初の価額を基準とし（取得原価基準）、建物、機器備品等の時の経過によりその価値を減少させる固定資産の貸借対照表計上額は、減価償却をおこなった後の金額となります。

（単位：千円）

●資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	27,373,143	28,037,263	△ 664,120
有形固定資産	25,560,401	25,933,599	△ 373,198
その他の固定資産	1,812,742	2,103,664	△ 290,922
流動資産	5,078,625	4,366,395	712,230
資産の部合計	32,451,768	32,403,658	48,110

●負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	1,090,525	1,411,651	△ 321,126
流動負債	2,061,544	1,638,048	423,496
負債の部合計	3,152,069	3,049,699	102,370

●基本金の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	38,521,855	38,317,081	204,774
第3号基本金	138,753	138,677	76
第4号基本金	650,000	650,000	0
基本金の部合計	39,310,608	39,105,758	204,850

●消費収支差額の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	△10,010,909	△9,751,799	△ 259,110
消費収支差額の部合計	△10,010,909	△9,751,799	△ 259,110
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	32,451,768	32,403,658	48,110

【用語（科目）の説明】

- ⑮ 固定資産……………有形固定資産：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車輛  
その他の固定資産：有価証券、引当資産等
- ⑯ 流動資産……………現金預金、未収入金、仮払金、貯蔵品
- ⑰ 固定負債……………長期借入金、退職給与引当金
- ⑱ 流動負債……………短期借入金、未払金、前受金、預り金
- ⑲ 基本金……………第1号基本金：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車輛等の教育研究に必要な資産を自己資金で取得した総額  
第3号基本金：天理大学ふるさと会海外研修基金、果実を学生の海外研修費用の一部に充当  
第4号基本金：学校法人が円滑な運営を行うために必要な運転資金の額
- ⑳ 消費収支差額 ……………当年度以前の各年度の消費収入から消費支出を差し引いた差額の累計額

資産の部では、有形固定資産が施設設備の更新、受贈等による増加と資産の除却による減少及び減価償却額を差し引いて、前年度末から3億7320万円減少しています。その他の固定資産は有価証券等の増額がありましたが、退職給与引当資産3億円を現金預金に繰り入れたことにより2億9092万円減少しています。流動資産は現金預金の増加等により7億1223万円の増となり、資産の部合計では差引4811万円増の324億5177万円となりました。負債の部では借入金、退職給与引当金が減少し、未払金、前受金、預り金が増加したので差引1億237万円増の31億5207万円となっています。基本金の部では2億4850万円の基本金組み入れを行いましたので総額393億1061万円となりました。

消費収支差額の部合計は、消費収支計算の翌年度消費支出超過額と同額の100億1091万円の消費支出超過となっています。資産の部合計から負債の部合計を差し引いた正味財産は292億9970万円となりました。

## (2) 経年比較

財務状況について、収支計算書及び貸借対照表の大科目又は主な科目の過去5年間の推移を記載します。

(単位：千円)

資金収支計算書					
●収入の部					
科 目	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
学生生徒等納付金収入	3,502,470	3,450,498	3,388,355	3,289,724	3,394,678
手数料収入	81,407	75,177	75,701	78,616	77,457
寄付金収入	3,416,733	3,390,877	3,251,160	3,258,298	3,100,250
補助金収入	1,393,259	1,257,913	1,260,021	1,222,293	1,290,385
資産運用収入	56,214	60,029	59,984	55,280	53,203
資産売却収入	7,480	16,311	510	104,640	100,000
雑収入	335,837	412,667	308,612	248,903	440,927
前受金収入	637,943	638,723	548,415	505,340	526,665
その他の収入	313,255	389,120	338,524	299,592	492,630
資金収入調整勘定	△ 963,517	△ 976,467	△ 928,536	△ 739,670	△ 880,210
前年度繰越支払資金	5,812,883	5,056,219	4,378,655	3,937,418	4,169,107
<b>収入の部合計</b>	<b>14,593,964</b>	<b>13,771,067</b>	<b>12,681,401</b>	<b>12,260,434</b>	<b>12,765,092</b>

●支出の部					
科 目	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
人件費支出	6,545,166	6,779,260	6,160,675	6,034,553	6,441,977
教育研究経費支出	1,152,133	1,206,959	1,161,355	1,171,301	1,167,167
管理経費支出	343,176	419,252	390,313	386,706	365,987
借入金等利息支出	10,618	9,035	7,453	5,870	4,288
借入金等返済支出	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
施設関係支出	882,432	984,777	76,743	65,030	87,233
設備関係支出	226,910	261,093	245,002	236,194	192,498
資産運用支出	105	142	234,728	96	109,078
その他の支出	1,263,672	987,508	1,360,152	922,438	900,861
資金支出調整勘定	△ 986,467	△ 1,355,614	△ 992,438	△ 900,861	△ 1,302,346
次年度繰越支払資金	5,056,219	4,378,655	3,937,418	4,169,107	4,698,349
<b>支出の部合計</b>	<b>14,593,964</b>	<b>13,771,067</b>	<b>12,681,401</b>	<b>12,260,434</b>	<b>12,765,092</b>

(単位：千円)

消費収支計算書					
●消費収入の部					
科 目	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
学生生徒等納付金	3,502,470	3,450,498	3,388,355	3,289,724	3,394,678
手数料	81,407	75,177	75,701	78,616	77,457
寄付金	3,425,909	3,415,086	3,466,252	3,271,458	3,250,441
補助金	1,393,259	1,257,913	1,260,021	1,222,293	1,290,385
資産運用収入	56,214	60,029	59,984	55,280	53,203
資産売却差額	0	7,807	0	393	0
雑収入	335,837	412,668	552,692	248,903	649,935
帰属収入合計	8,795,096	8,679,178	8,803,005	8,166,667	8,716,099
基本金組入額合計	△ 1,126,131	△ 953,736	△ 423,714	△ 308,159	△ 204,849
<b>消費収入の部合計</b>	<b>7,668,965</b>	<b>7,725,442</b>	<b>8,379,291</b>	<b>7,858,508</b>	<b>8,511,250</b>

●消費支出の部					
科 目	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
人件費	6,664,826	6,746,319	6,212,382	5,851,321	6,220,850
教育研究経費	1,891,658	1,960,866	1,914,122	1,909,723	1,858,820
管理経費	385,682	460,866	730,247	425,029	622,004
借入金等利息	10,618	9,035	7,453	5,870	4,288
資産処分差額	37,399	83,004	16,240	36,114	64,397
<b>消費支出の部合計</b>	<b>8,990,183</b>	<b>9,260,090</b>	<b>8,880,444</b>	<b>8,228,057</b>	<b>8,770,359</b>
当年度消費支出超過額	1,321,218	1,534,648	501,153	369,549	259,109
前年度繰越消費支出超過額	6,189,947	7,511,165	9,035,533	9,382,250	9,751,799
基本金取崩額	0	10,280	154,436	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	7,511,165	9,035,533	9,382,250	9,751,799	10,010,908

(単位：千円)

貸借対照表					
●資産の部					
科 目	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末	23年度末
固定資産	28,347,694	28,730,208	28,639,014	28,037,263	27,373,143
流動資産	5,366,169	4,725,940	4,235,569	4,366,395	5,078,625
<b>資産の部合計</b>	<b>33,713,863</b>	<b>33,456,148</b>	<b>32,874,383</b>	<b>32,403,658</b>	<b>32,451,768</b>



●負債の部					
固定負債	1,876,116	1,743,175	1,694,883	1,411,651	1,090,525
流動負債	1,764,048	2,220,185	1,764,152	1,638,048	2,061,544
負債の部合計	3,640,164	3,963,360	3,459,035	3,049,699	3,152,069
●基本金の部					
第1号基本金	36,796,535	37,739,857	38,009,016	38,317,081	38,521,855
第3号基本金	138,329	138,464	138,582	138,677	138,753
第4号基本金	650,000	650,000	650,000	650,000	650,000
基本金の部合計	37,584,864	38,528,321	38,797,598	39,105,758	39,310,608
●消費収支差額の部					
翌年度繰越消費支出超過額	△ 7,511,165	△ 9,035,533	△9,382,250	△ 9,751,799	△10,010,909
消費収支差額の部合計	△ 7,511,165	△ 9,035,533	△9,382,250	△ 9,751,799	△10,010,909
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	33,713,863	33,456,148	32,874,383	32,403,658	32,451,768

### (3) 主な財務比率の推移

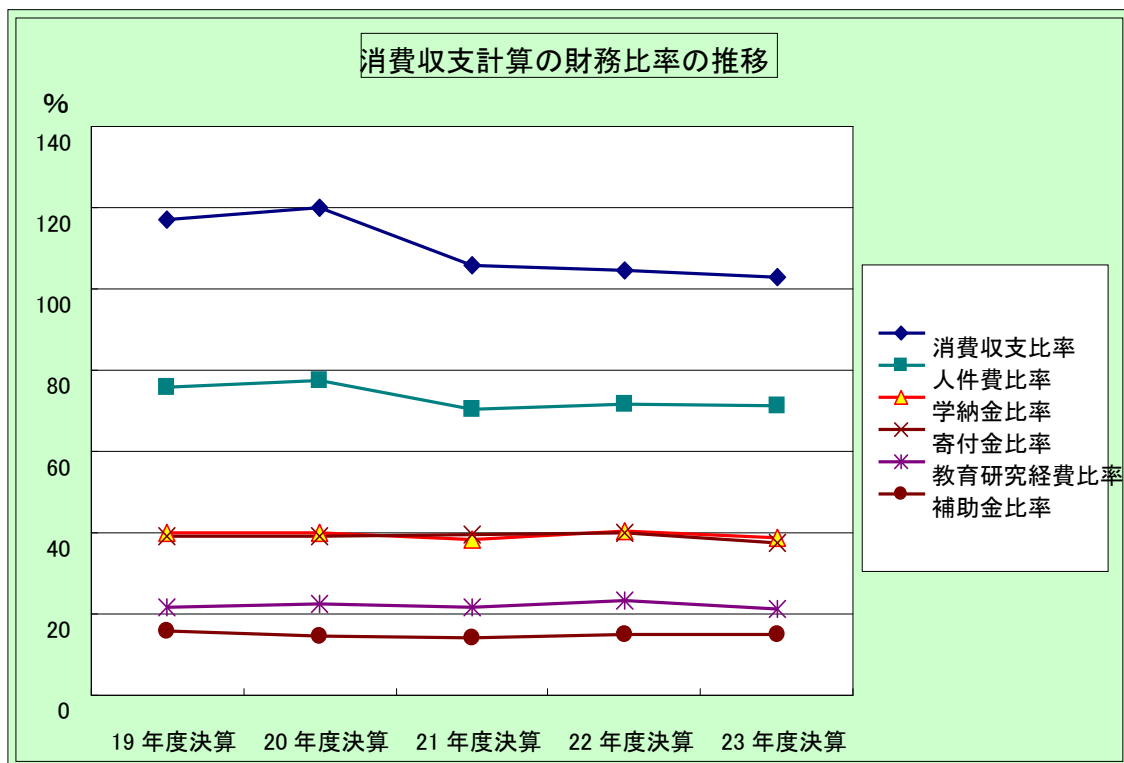
主な消費収支計算書関係比率と貸借対照表関係比率の過去5年間の推移を掲載し、一部の比率についてグラフにより概要を説明します。

(単位：%)

比 率	算 式 (×100)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	75.8	77.7	70.6	71.6	71.4
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	190.3	195.5	183.3	177.9	183.3
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	21.5	22.6	21.7	23.4	21.3
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	4.4	5.3	8.3	5.2	7.1
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.1	0.1	0.1	0.1	0
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	△2.2	△6.7	△0.9	△0.8	△0.6
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	117.2	119.9	106.0	104.7	103.0
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	39.8	39.8	38.5	40.3	38.9

寄付金比率	寄付金 — 帰属収入	39.0	39.3	39.4	40.1	37.3
補助金比率	補助金 — 帰属収入	15.8	14.5	14.3	15.0	14.8
自己資金構成比率	自己資金 — 総資金	89.2	88.2	89.5	90.6	90.3
流動比率	流動資産 — 流動負債	304.2	212.9	240.1	266.6	246.4
負債比率	総負債 — 自己資金	12.1	13.4	11.8	10.4	10.8
基本金比率	基本金 — 基本金要組入額	98.4	98.6	98.9	99.2	99.4

「総資金」は負債＋基本金＋消費収支差額を、「自己資金」は基本金＋消費収支差額をあらわす。



消費収支比率は100%を恒常的に上まわり、23年度では3.0ポイント上まわりました。人件費比率が19・20年度は停年退職者による退職金の増加によりアップしていましたが(平均76.8%)、21年度以降は21年度70.6%、22年度71.6%、23年度71.4%と下降傾向です。学生生徒等納付金比率(学納金比率)及び寄付金比率はほぼ横ばい状態で推移しています。教育研究経費比率は管理経費の増額等により2.1ポイント下がっています。補助金収入は、22年度より増額となりましたが、比率は0.2ポイント下がっています。